



# 2026年3月期 第1四半期 決算概要

シスメックス株式会社  
2025年8月6日

Together for a better  
healthcare journey

# Disclaimer

- ・本資料のうち、売上予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想数値と大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載されている製品等の情報は、薬事認可取得の有無に関わらず宣伝広告および医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- ・当社グループは、2017年3月期より国際会計基準（IFRS）を適用し、IFRSに準拠して開示しております。

# Index

1. エグゼクティブサマリー
2. 2026年3月期 第1四半期決算概要
3. 成長戦略の進捗
4. 2026年3月期 業績予想

**(補足資料)**

- 2025年3月期サステナビリティ目標実績（速報）

# 1. エグゼクティブサマリー

## 第1四半期実績

### ● 円高および日本の基幹システム切り替えなどが影響し、対前年減収減益

対前年同期比 売上高：94.4%、営業利益：63.5%、四半期利益：41.3%

- － システム切り替えに伴う受注制限 【影響額：売上高 △33億円、粗利益△24億円】
- － システム稼働開始に伴う償却費増加 【影響額：販管費(償却費) +6億円】

【システム切り替え影響額：売上高 △33億円、営業利益 △30億円】期初業績予想に織り込み済

- － 海外の棚卸資産見直しの影響 【影響額：営業利益 △17 億円】期初業績予想に未反映

### ● 日本、中国を除き、現地通貨ベースでは対前年増収

- － 中国は政府が推進する医療費抑制政策による市場環境悪化の影響を受け、売上は現地通貨ベースで対前年△5%

## 2026年3月期 業績予想

- 上期：以下 影響を織り込み計画を修正
  - － 日本のシステム切り替え影響からの回復遅れ
  - － 中国の減収リスク（現地通貨ベースで前年同期比△5～10%程度の影響）
  - － 第1四半期に計上した海外の棚卸資産見直しの影響
- 通期：

各地域での販売強化に加え、新たな成長材料を追加することで、**通期では計画達成を見込む**

  - ・ 米州：XR<sup>TM</sup>シリーズ・CN<sup>TM</sup>シリーズ の下期業績貢献
  - ・ 中国：販売強化策・製品ポートフォリオの追加により対前年同程度を維持
  - ・ 日本：他社協業等による製品ポートフォリオの追加
  - ・ ダイアグノスティクス事業での新たな成長要素：順調に協議が進展中

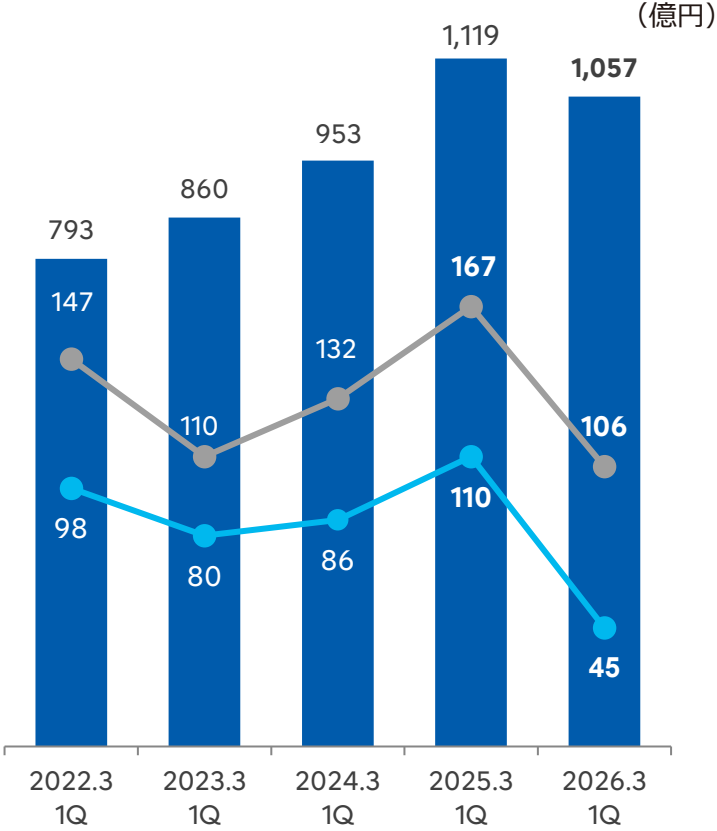
## 2. 2026年3月期 第1四半期決算概要

# 決算総括（対前年）



(億円)	2026年3月期1Q		前年同期		前年同期比
	実績	構成比	実績	構成比	
売上高	1,057.3	100%	1,119.4	100%	94.4%
売上原価	512.6	48.5%	519.0	46.4%	98.8%
販売費及び一般管理費	382.9	36.2%	360.1	32.2%	106.3%
研究開発費	64.0	6.1%	73.5	6.6%	87.1%
その他の営業損益	8.6	0.8%	0.7	0.1%	-
営業利益	106.2	10.1%	167.4	15.0%	63.5%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	45.5	4.3%	110.3	9.9%	41.3%

- **売上高** ：円高および日本の基幹システム切り替えの影響により、減収
- **営業利益** ：基幹システムの切り替え影響などにより、減益
  - ✓ **基幹システムの切り替え影響** 売上高 △33 億円、販管費 +6 億円、営業利益 △30億円
  - ✓ **海外棚卸資産の評価見直し** 営業利益 △17億円
  - ✓ **為替の影響** 売上高 △55.0 億円、販管費 △13.4 億円、営業利益 +7.1億円
  - ✓ **前年同期為替レート適用の場合** 売上高 99.4%、販管費 110.1%、営業利益 59.2%
- **四半期利益** ：△58.7%の減益 為替差損益：△15.0億円（前年同期比△28.9億円）



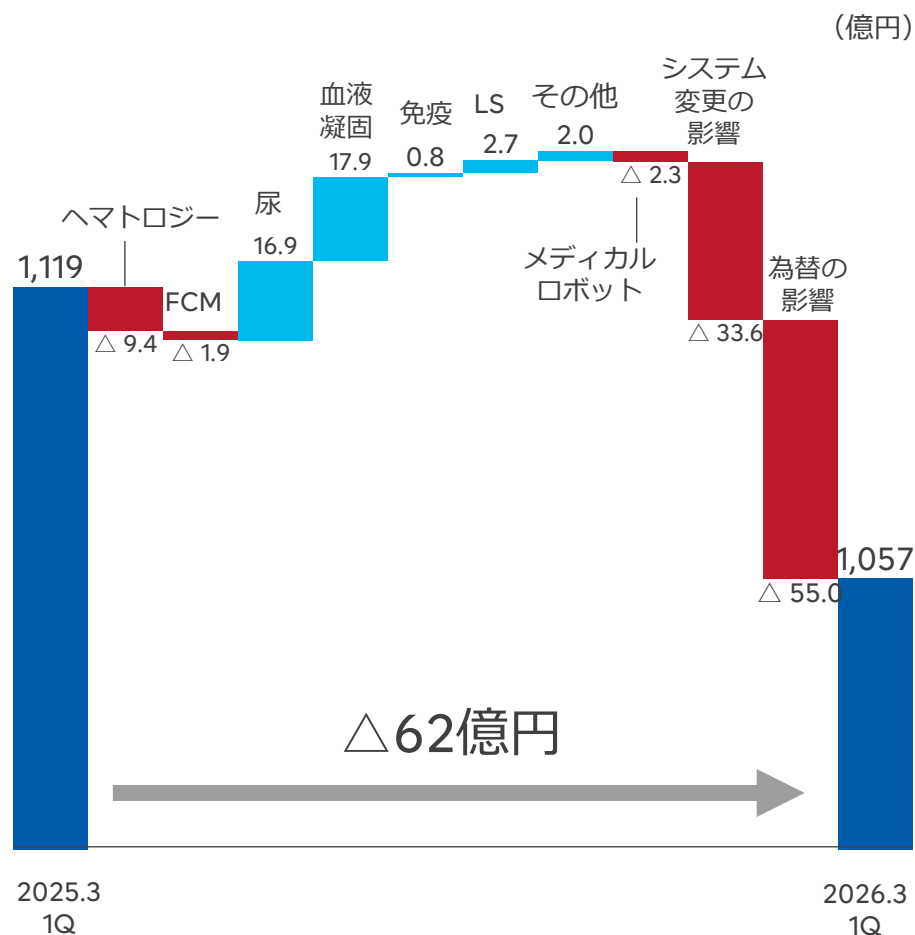
	2026年3月期1Q	前年同期
1USD	144.6円	155.9円
1EUR	163.8円	167.9円
1CNY	20.0円	21.5円



# 売上高の増減要因（事業別・分野別）

## 事業別・分野別売上高

円高、システム切り替えの影響を受けるも尿・血液凝固分野が好調



※各分野の売上は日本地域におけるシステム変更の影響除く

(億円)	2026年3月期1Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	システム切り替え・為替影響を除く
売上高	1,057.3	100.0%	94.4%	102.4%
ヘマトロジー	648.0	61.3%	91.7%	98.7%
FCM	5.9	0.6%	73.1%	76.8%
尿	97.3	9.2%	109.1%	118.9%
血液凝固	146.9	13.9%	100.7%	112.3%
免疫	40.1	3.8%	86.0%	101.7%
生化学	6.4	0.6%	73.4%	83.9%
ライフサイエンス	51.1	4.8%	97.6%	101.0%
その他	52.2	4.9%	103.9%	107.2%
ダイアグノスティクス事業	1,048.2	99.1%	94.6%	102.6%
メディカルロボット事業	9.0	0.9%	79.7%	79.7%

# 売上高の増減要因（地域別・品目別）



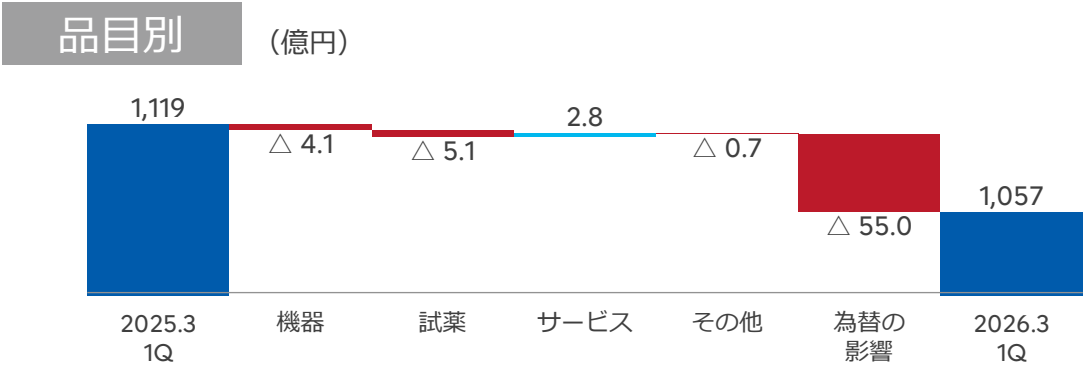
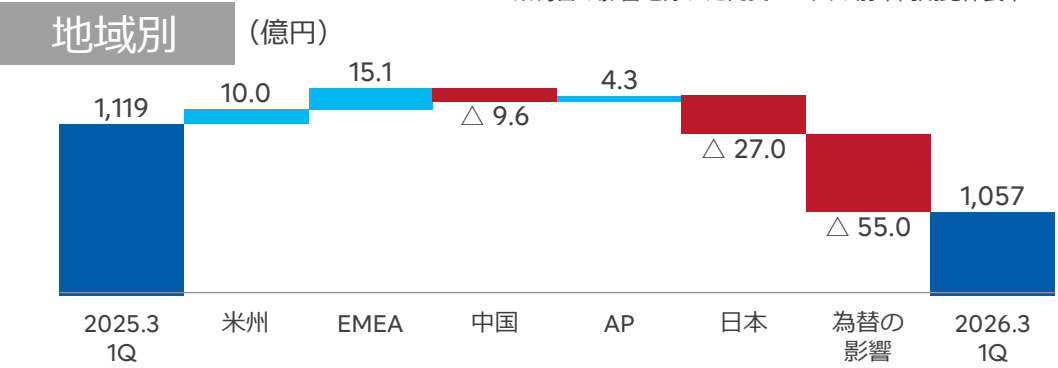
日本、中国を除き、現地通貨ベースでは対前年増収

(億円)	2026年3月期1Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	1,057.3	100.0%	94.4%	99.4%※
米州	302.0	28.6%	95.5%	102.9%
EMEA	351.5	33.2%	101.2%	103.7%
中国	172.7	16.4%	88.5%	95.1%
AP	120.9	11.4%	98.0%	103.5%※
日本	110.1	10.4%	80.3%	-
機器	194.0	18.4%	93.2%	98.0%※
試薬	667.6	63.1%	94.3%	99.3%※
サービス	156.0	14.8%	96.3%	101.8%※
その他	39.5	3.7%	95.2%	98.2%※

## 地域別の主な増減要因 \*現地通貨ベース

米州	・ 中南米向け機器売上が前年好調の影響により減収するも、北米のヘマトロジーおよび尿分野が伸長し、 <b>増収を達成</b>
EMEA	・ 中東における地政学的影響により、トルコやサウジアラビアなどが減収となるも、主要国が好調に推移し、 <b>増収を達成</b>
中国	・ 政府主導の医療費抑制政策による厳しい環境下、販売施策の強化などにより、対前年5%減収
AP	・ 尿・血液凝固分野の試薬が伸長し、現地通貨ベースでは <b>増収</b> 。AP地域内で発生する為替影響などにより、円ベースでは <b>減収</b>
日本	・ 基幹システム切り替えに伴う受注制限の実施により、試薬が大幅に減収となり、 <b>減収</b>

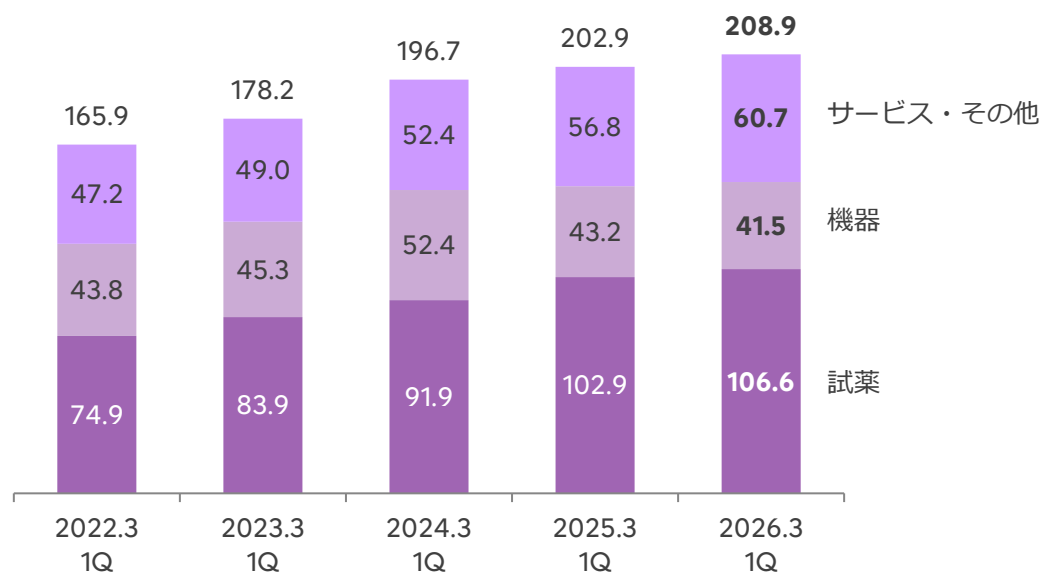
※為替の影響を除いた円貨ベースの前年同期比伸長率



# 米州（地域別）

(Million USD)	2026年3月期 1Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	<b>208.9</b>	202.9	<b>102.9%</b>	95.5%
機器	<b>41.5</b>	43.2	<b>96.0%</b>	89.1%
試薬	<b>106.6</b>	102.9	<b>103.6%</b>	96.1%
サービス・その他	<b>60.7</b>	56.8	<b>106.9%</b>	99.2%

売上高推移（Million USD）



中南米向け機器売上が前年好調の影響により減収するも、北米のヘマトロジーおよび尿分野が伸長し、増収を達成

## ● 機器

- ✓ 中南米における前年好調の影響を受け、減収
- ✓ 販促活動強化を進めた尿分野および直販を開始した米国において血液凝固分野が伸長

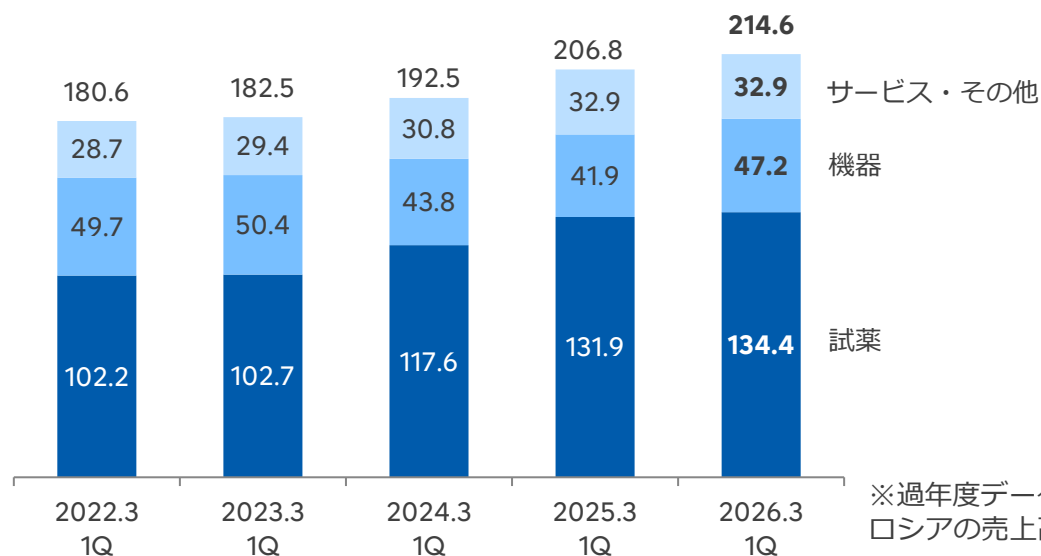
## ● 試薬

- ✓ ヘマトロジー・尿・免疫が好調に推移し、増収
- ※アミロイドβ検査試薬（売上高0.5 million USD + 32%）

# EMEA（地域別）

(Million EUR)	2026年3月期 1Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	<b>214.6</b>	206.8	<b>103.7%</b>	101.2%
機器	<b>47.2</b>	41.9	<b>112.5%</b>	109.8%
試薬	<b>134.4</b>	131.9	<b>101.9%</b>	99.4%
サービス・その他	<b>32.9</b>	32.9	<b>100.0%</b>	97.5%

売上高推移（Million EUR）



※過年度データを含め、ロシアの売上高を除く

中東における地政学的影響により、トルコやサウジアラビアなどが減収となるも、主要国が好調に推移し、増収を達成

## ● 機器

- ✓ フランスや北欧などでXRシリーズが好調に推移し、増収
- ✓ イタリアも直販切替が順調に進み、ヘマトロジー、尿分野ともに伸長

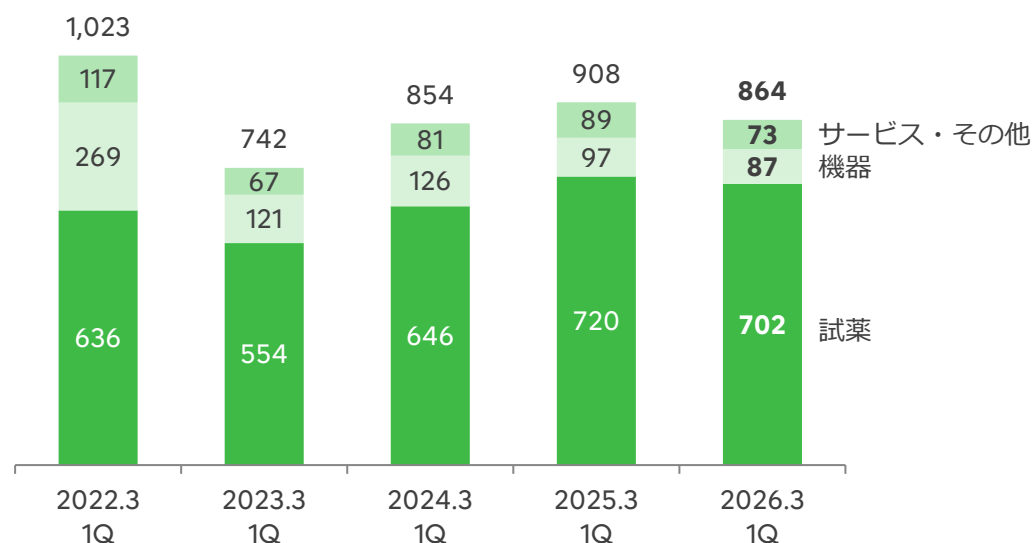
## ● 試薬

- ✓ トルコ、サウジアラビアで減収も、ドイツやフランスで血液凝固分野が直販効果により伸長、尿分野も地域全体で好調に推移し、増収

# 中国（地域別）

(Million CNY)	2026年3月期 1Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	<b>864.0</b>	908.8	<b>95.1%</b>	88.5%
機器	<b>87.6</b>	97.8	<b>89.5%</b>	83.3%
試薬	<b>702.9</b>	720.9	<b>97.5%</b>	90.7%
サービス・その他	<b>73.3</b>	89.9	<b>81.5%</b>	75.9%

売上高推移（Million CNY）



政府主導の医療費抑制政策による厳しい環境下、販売施策の強化などにより、対前年5%減収

## ● 機器

- ✓ ヘマトロジー分野は、前年同期に販売開始の中下位市場向け機種が好調だった影響により、減収
- ✓ 尿・血液凝固・免疫分野は、現地生産品が好調に推移し、2桁伸長

## ● 試薬

- ✓ ヘマトロジー分野は、初回検査からのCRP\*検査除外などの影響により、減収
- ✓ 尿・血液凝固・免疫分野は抑制政策の影響があるも、稼働台数増加や項目採用拡大により、伸長

\*CRP検査試薬はヘマトロジー分野に分類

## 政府主導による医療費抑制政策

### ● 検査単価の引き下げ

#### ✓ 集中購買 (VBP)

検査単価が高く、検査数の多い免疫分野項目を中心に試薬の病院納入価格を約50%低減。省を跨いで実施

#### ✓ 検査価格の統一

省ごとに異なる検査価格を全国統一する施策。高い省の価格を下げ、上限価格を統一する方向で進展。現在、免疫分野および糖尿病関連検査が対象

### ● 検査数の適正化

#### ✓ 検査データの施設間共有

転院時の再検査実施の抑制。2030年末までに全国拡大

#### ✓ セット検査の制限/DRG

ヘマトロジーにおける初回基本検査からのCRP項目の除外など、検査項目の適正化を目的とした保険償還の厳格化。

厳しい市場環境が継続

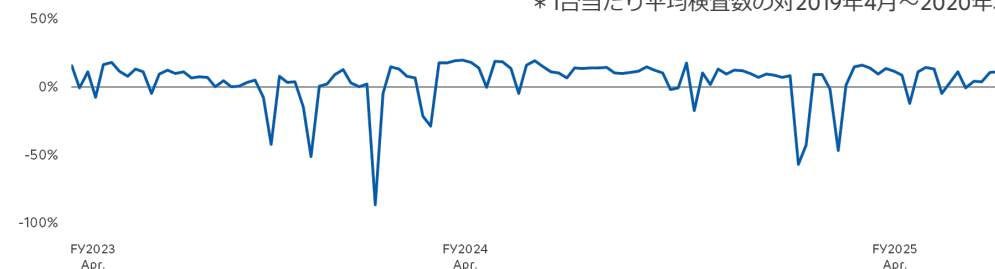
## シスメックスの現状と対策

### ● 現状

- ✓ 厳しい環境下、セット検査の除外によりCRP検査数は減少も、ヘマトロジー検査数は微減
- ✓ 現地生産品の導入により、尿・血液凝固・免疫分野は増収も予断は許さない状況

上期で売上高△5-10%のリスクを見込む

■ 中国ヘマトロジー検査数推移



### ● 対策

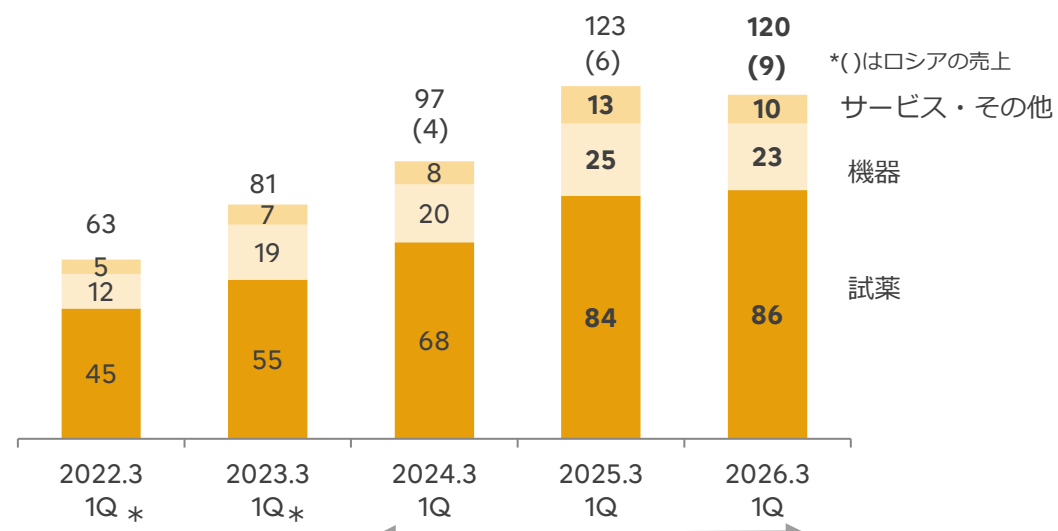
- ✓ ターゲット施設への**直接アプローチ強化**による他社攻略推進
- ✓ 医療機関の収支改善に資する**フルオートメーションシステム製品の提案**を進め、採用施設数の増加
- ✓ **製品ポートフォリオの拡充**

# AP（地域別）

(億円)	2026年3月期 1Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	<b>120.9</b>	123.4	<b>98.0%</b> (103.5%)
ダイアグノスティクス事業	<b>120.4</b>	123.4	<b>97.6%</b>
機器	<b>23.1</b>	25.4	<b>90.7%</b>
試薬	<b>86.6</b>	84.0	<b>103.1%</b>
サービス・その他	<b>10.6</b>	13.8	<b>77.1%</b>
メディカルロボット事業	<b>0.4</b>	-	-

\*( )は為替の影響を除いた場合

## 売上高推移（億円）



\* ロシア売上高を含まない

ロシア売上高を含む

尿・血液凝固分野の試薬が伸長し、現地通貨ベースでは増収  
AP地域内で発生する為替影響などにより、円ベースでは減収

## ダイアグノスティクス事業

### ● 機器

- ✓ インドで大幅伸長も、インドネシアにおける医療機器への予算抑制の影響などにより、減収

### ● 試薬

- ✓ 尿・血液凝固分野が好調に推移し、増収
- ✓ ヘマトロジー分野は、インドでの前年同期の好調の影響などにより、微減

## メディカルロボット事業

- ✓ シンガポールで100症例以上、マレーシアで80症例以上実施されるなど、手術数は順調に増加

# 日本（地域別）

（億円）	2026年3月期 1Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	<b>110.1</b>	137.1	<b>80.3%</b>
ダイアグノスティクス事業	<b>101.4</b>	125.8	<b>80.7%</b>
機器	<b>15.6</b>	16.8	<b>93.2%</b>
試薬	<b>66.0</b>	86.9	<b>76.0%</b>
サービス・その他	<b>19.7</b>	22.0	<b>89.4%</b>
メディカルロボット事業	<b>8.6</b>	11.3	<b>76.0%</b>

基幹システム切り替えに伴う受注制限の実施により、試薬が大幅に減収となり、減収

## ダイアグノスティクス事業

### ● 機器

- ✓ 血液凝固分野で大幅に伸長も、ヘマトロジー分野での前年度における好調な機器販売の反動等の影響により、減収

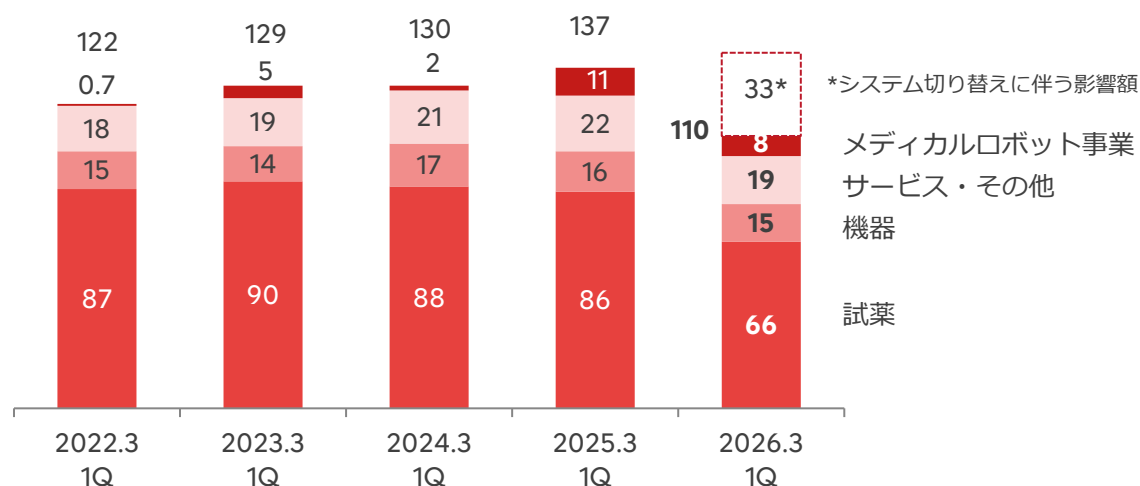
### ● 試薬

- ✓ 基幹システムの切り替え時に主要分野の受注制限を実施し、減収

## メディカルロボット事業

- ✓ 第1四半期導入台数：1台、累計台数：87台
- ✓ 設置台数および症例数の増加に伴い、サービス・消耗品（鉗子など）の売上は着実に増加

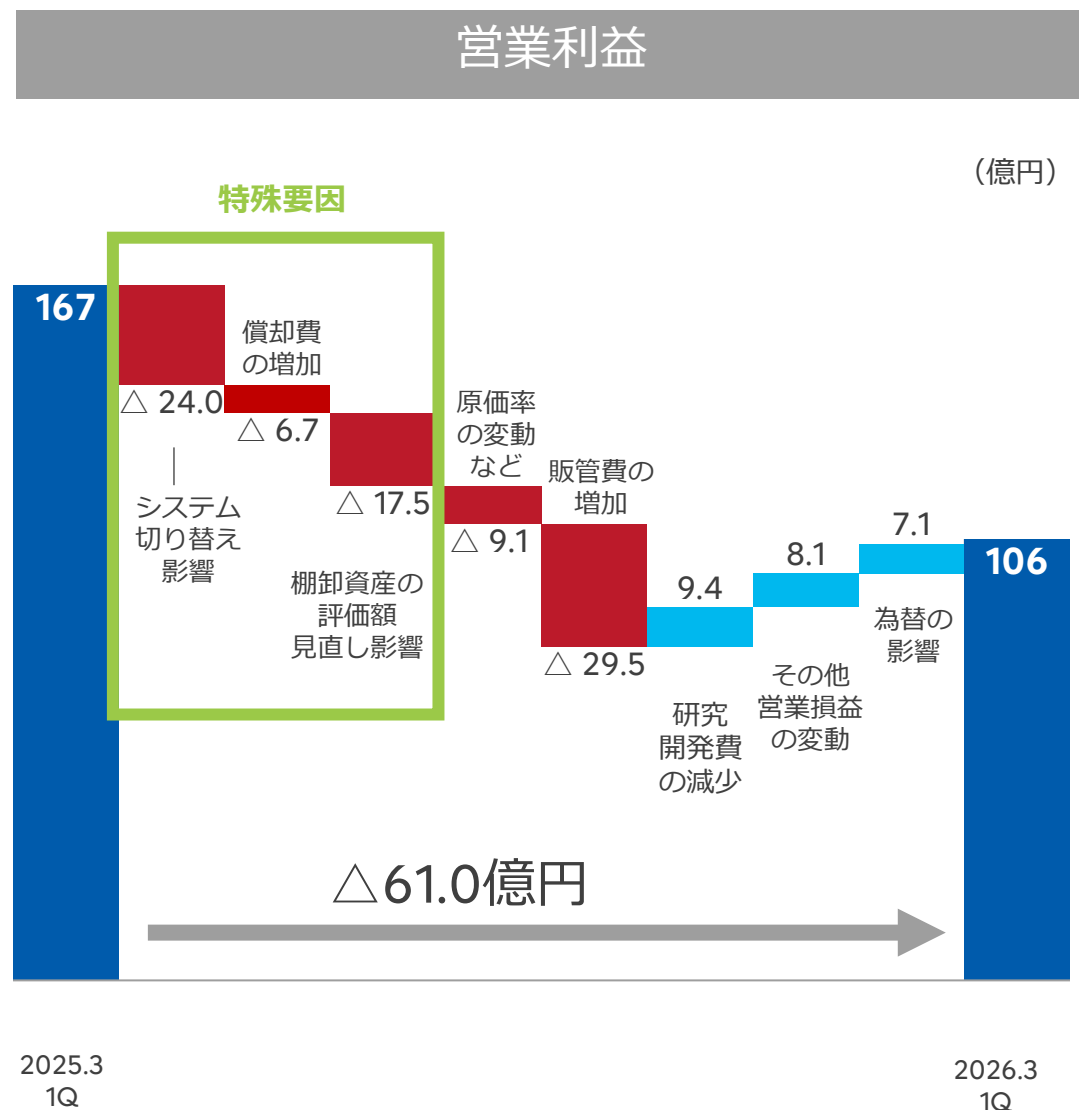
売上高推移（億円）





# 営業利益の増減要因（対前年）

※下記数値・コメントは為替の影響を除く



- 特殊要因：△48.2億円
  - ✓ システム切り替えに伴う受注制限による粗利の変動：△24.0億円
  - ✓ 基幹システム稼働に伴う償却費増加：△6.7億円
  - ✓ 連結上の棚卸資産の評価額見直しの影響：△17.5億円
- 原価率変動などによる影響：△9.1億円（0.9pt悪化）
  - ✓ 改善要因：ロジコストの改善 0.4 pt
  - ✓ 悪化要因：サービスコストの悪化 1.0pt
- 販売管理費の増加：△29.5億円
  - ✓ 労務費：直販地域拡大に伴う人員増や単価増：約△15億円
  - ✓ 経費：規模拡大や販促活動による増加：約△11億円
- 研究開発費の減少：9.4億円
  - ✓ 製品開発への投資継続も、血液凝固分野のプロジェクト完了やライフサイエンス分野のPivotによる研究開発テーマの精査などにより減少
- その他営業損益の変動：8.1億円
- 為替の影響：+7.1億円

# 3. 成長戦略の進捗

～ 既存事業の強化・新興国戦略・新規事業の拡大 ～

# 3つの成長戦略：既存事業の強化

## ヘマトロジー分野

### ✓ 進捗

- **XRシリーズの米国承認取得（6月下旬）**
- EMEAで堅調な成長を継続

### ✓ 2026年3月期の予定

- 米州でのXRシリーズ販売開始



多項目自動血球分析装置 XRシリーズ

## 血液凝固分野

### ✓ 進捗

- **CNシリーズの米国承認取得（6月初旬）**
- EMEA主要国における試薬の好調な伸長
- EMEA、日本、韓国におけるBlood Scienceの導入推進

### ✓ 2026年3月期の予定

- 米州でのCNシリーズ販売開始



全自動血液凝固測定装置 CNシリーズ

グローバルNo.1のヘマトロジーおよび血液凝固分野で  
世界最大の市場である米国において新製品の展開開始

# 既存事業の強化 アルツハイマー病 関連血液バイオマーカー



発症前から軽度認知症まで、優位性のあるA $\beta$ を起点としたバイオマーカーの製品開発を推進

## ApoE

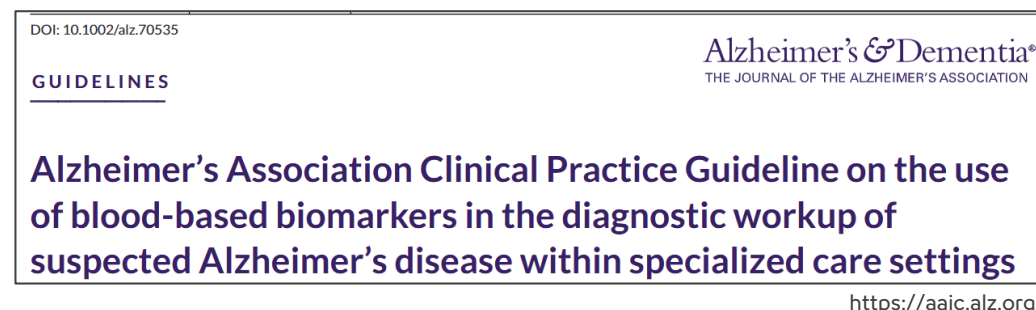
- 国内初のアルツハイマー病治療薬の副作用検査試薬として製造販売承認を取得（2025年6月）

## アミロイド $\beta$ (A $\beta$ 42/40 ratio)

- 感度、特異度が非常に高く、アルツハイマー病協会国際会議で発表されたスクリーニングガイドラインにおいて、唯一のアミロイド $\beta$ 試薬として掲載（2025年7月）

## p-tau217, 205

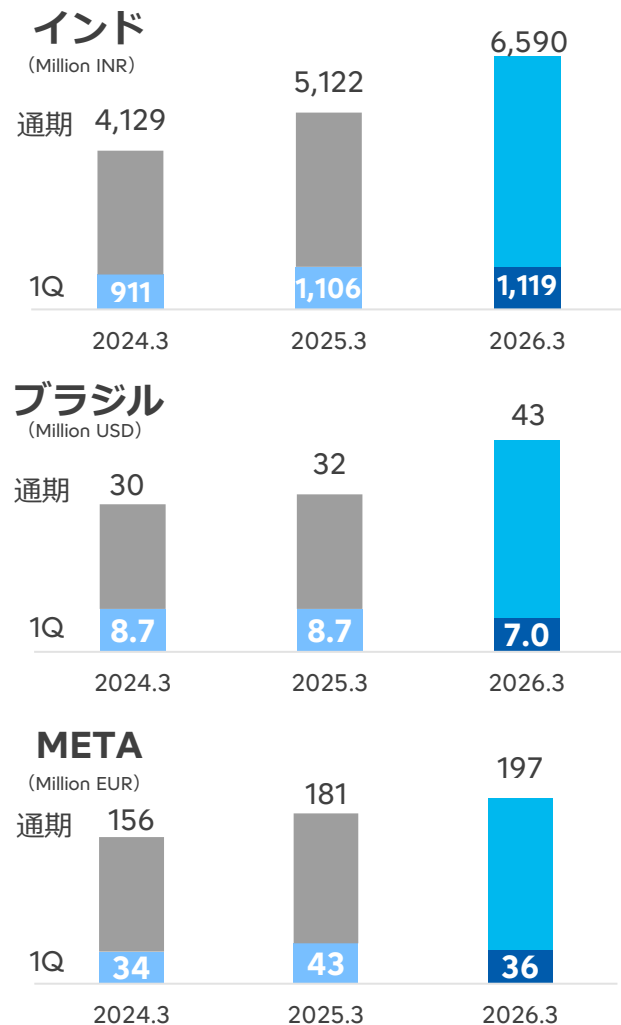
- p-tau217：2026年3月期発売に向けて準備中
- p-tau205：p-tau 217に続き優先度を上げて開発推進  
リファレンス法（質量分析法）と非常に高い相関性を確認  
国際アルツハイマー・パーキンソン病学会にて発表  
（2025年4月）



<https://adpd2025.kenes.com/>

# 3つの成長戦略：新興国戦略

## 今期の成長ドライバー



\*META : Middle East, Turkey, Africa地域

- **Make in India**に対応した現地生産品の販売開始による入札対象案件の増加
- サポート体制強化によるインド国内販売エリアの拡大

- 医療インフラ投資増加による市場の拡大
- 機器設置台数の増加による、試薬売上の堅調な伸長

- サウジアラビアの医療インフラ投資増加による市場の拡大
- 中東において、**Blood Science**の活用による血液凝固分野の販売拡大

## 今後の取り組み

インド新生産拠点での生産品目拡充による市場拡大を見据えたさらなる基盤強化

成長著しい中南米市場への安定供給体制を支えるブラジル試薬新生産拠点の着工



ブラジル  
新生産拠点イメージ

ケニアの直販化による東アフリカ地域のビジネス最大化

# 3つの成長戦略：新規事業の拡大 メディカルロボット事業

着実な事業の進捗により、さらなる成長フェーズへ

2024年4月  
呼吸器外科領域への適応承認取得

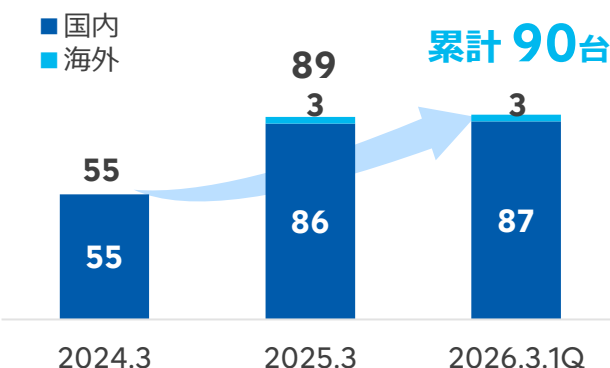
2024年9月  
マレーシアにて薬事認可取得

2025年3月  
欧州医療機器規則に基づく「CEマーク」  
認証取得に向けた申請を実施

2025年6月  
欧州と日本間では世界初の遠隔手術  
の実証実験に成功

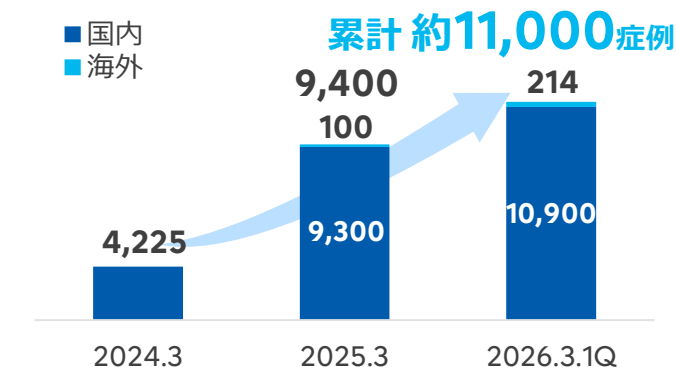


■ hinotori™グローバル累積台数推移



手術支援ロボット「hinotori サージカルロボットシステム」

■ hinotoriグローバル累積症例数推移



✓ 国内のロボット支援下手術における症例数の約9割以上カバーし、  
着実に導入台数・症例数を伸長

✓ メディカロイドは2026年3月期  
に単年度黒字化を計画

# 3つの成長戦略：新規事業の拡大 再生細胞医療など

## 再生細胞医療

### ● 既存技術を活用し、より安全かつ質の高い再生細胞医療の提供へ貢献

- ✓ 当社の検査技術を再生細胞医療の品質管理試験に応用。  
メガカリオン社のiPS細胞由来血小板製剤の品質管理にも実装予定
- ✓ Gaudi Clinicalと提携し、医療機関向け細胞製造サービスを展開。  
当社検査で安全・高品質な治療に貢献



研究用  
フローサイトメーター  
RF-500



多項目自動血球分析装置  
XR-1000



全自動免疫測定装置  
HISCL-800

## デジタルソリューション

### ● AI×医療データで、慢性疾患・がんの予防支援を加速（日本生命との協業に合意）

- ✓ 両社で慢性疾患やがんなどの疾患リスク評価モデル開発のフェージビリティスタディを実施し、良好な結果を取得
- ✓ 疾患リスク評価モデルなどの開発に向け、複数の具体的な研究テーマを設定し、取り組みを共同で推進

## 4. 2026年3月期 業績予想



# 米国相互関税の影響について

売上原価影響 年間約30-40億円の想定内に収まる見込み

## 期初前提

- 相互関税 追加関税率10%  
対象：主に米国向け機器製品
- 鉄鋼・アルミ製品への追加関税25%  
対象：主にアルミ・鉄鋼を含む日本産パーツなど
- 各国の報復関税影響

## 変更後前提 \*8月1日以降

- 相互関税 追加関税率**15%**  
対象：主に米国向け機器製品
- 鉄鋼・アルミ製品への追加関税**50%**  
対象：主にアルミ・鉄鋼を含む日本産パーツなど
- 各国の報復関税影響

## 1Q影響は軽微

在庫積み増しやサプライチェーンの見直しに加え、製造方法の見直しや価格転嫁などの対策推進により  
関税増加分を考慮しても通期で期初想定内に収まる見込み

# 2026年3月期 業績予想



上期：日本のシステム切り替え影響からの回復遅れ、中国の減収リスク、第1四半期に計上した海外の棚卸資産見直しの影響 を織り込み計画修正

通期：進展中のダイアグノスティクス事業の新たな成長要素の具現化に加え、更なる取組みにより計画達成見込み

(億円)	期初予想 2026年3月期 上期 (4月-9月)		修正予想 2026年3月期 上期 (4月-9月)			*修正なし 2026年3月期 通期 (4月-3月)		
	構成比			構成比	対期初予想		構成比	対前年
売上高	2,525	100.0%	<b>2,400</b>	100.0%	△125	<b>5,350</b>	100.0%	105.2%
営業利益	445	17.6%	<b>360</b>	15.0%	△85	<b>915</b>	17.1%	104.5%

● 想定為替レート  
\* 変更なし

	通期 (2025年5月公表)
1 USD	142.0円
1 EUR	160.0円
1 CNY	19.5円

● 為替感応度の概算値  
\* 変更なし

	売上 (年間)	営業利益 (年間)
USD	8.1億円	1.1億円
EUR	6.0億円	0.5億円
CNY*	5.8億円	4.3億円

\*0.1円変動時

**(補足資料)**

# サステナビリティ目標 2025年3月期実績



・目標を「-」で表示している項目は、目標を設定しないモニタリング項目

## 健康社会への新たな価値創出

マテリアリティ	KPI	実績		目標
		2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
イノベーションを通じた医療課題解決	ヘマトロジー検査件数	3,325百万件	3,322百万件	-
	ヘマトロジー市場シェア※1	53.0%	54.6%	-
	手術支援ロボットによる症例数	2,903件	5,209件	-
	特許保有件数	3,868件	3,337件	-
	特許出願件数	200件	182件	-
	がんゲノム医療解析実施件数※2	1.6千件	1.8千件	-
	OSNA™法による乳がん患者検査数	52千件	53千件	-
医療アクセスの向上	新興国・開発途上国売上高	1,646億円	1,795億円	-

## 責任ある製品・サービス・ソリューションの提供

マテリアリティ	KPI	実績		目標
		2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
品質と信頼の追求	リコール件数	4件	6件	-
	FDA Warning Letter件数	0件	0件	-
サプライチェーンマネジメントの強化	CSR調査回答率（国内・海外一次サプライヤー）	95%	95%	90%
	サプライヤー（国内）に対するトレーニング件数※3	6件	6件	5件
	サプライヤー（国内一次）第三者認証取得率※3	88%	89%	-

※1 出所：Clearstateおよび当社推計 ※2 対象：国内グループ会社 ※3 対象：シスメックス株式会社単体

# サステナビリティ目標 2025年3月期実績



- ・2024年3月期実績は速報値
- ・目標を「-」で表示している項目は、目標を設定しないモニタリング項目

## 環境への負荷低減

マテリアリティ	KPI	実績		目標
		2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
製品ライフサイクルにおける資源循環	プロダクトロスのゼロ化	0.40%	0.40%	0.18%
	リサイクル・環境配慮材料への完全代替	43%	62%	60%
	GHG排出量削減率（スコープ3）※1	4%削減	1%削減	10%削減
	サプライヤーエンゲージメント比率	-	40%	-
	包装用資材削減率※2	9%削減	4%削減	-
事業活動における環境負荷低減	GHG排出量削減率（スコープ1,2）※1	29%削減	33%削減	40%削減
	再生可能エネルギー比率	69%	72%	75%
	一人あたりエネルギー使用量削減率※1	8%削減	7%削減	3%削減
	水消費量削減率（主要試薬工場）※1	2pt増加 ※3	31pt削減	23pt削減
	総廃棄物量削減率※1	32%削減	33%削減	5%削減
	製商品廃棄額対売上高比率	0.4%	0.5%	-

GHG排出量 スコープ1：企業の施設や工場、社用車から直接排出される温室効果ガス

GHG排出量 スコープ2：エネルギーの使用に伴う、企業から間接排出される温室効果ガス

GHG排出量 スコープ3：商品・サービスに関わる企業群（サプライチェーン）全体から排出される温室効果ガス

※1：基準年度2022年度 ※2：基準年度2019年度

※3：計算方法の見直しにより、昨年度開示数値から変更

# サステナビリティ目標 2025年3月期実績



・目標を「-」で表示している項目は、目標を設定しないモニタリング項目

## ガバナンスの強化

マテリアリティ	KPI	実績		目標
		2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
コーポレート・ガバナンス	投資家アナリストミーティング数※2	723社	753社	-
コンプライアンス	内部通報件数	26件	17件	-
	倫理違反件数	15件	19件	-
リスクマネジメント	情報リテラシー教育受講者数※1	11,097名	27,060名	-
	防災教育受講率※1	-	89.5%	-

※1 対象：国内グループ会社 ※2 対象：シスメックス株式会社単体

# サステナビリティ目標 2025年3月期実績



・目標を「-」で表示している項目は、目標を設定しないモニタリング項目

## 魅力ある職場の実現

マテリアリティ	KPI	実績		目標
		2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
エンゲージメントの向上	エンゲージメントスコア	75%	76%	75%
	離職率	7.7%	8.0%	10%以下
	自発的離職率	5.6%	5.6%	-
	育児休業からの復帰率※2	99%	99%	-
	男性育児休業取得率※2	61%	77%	65%以上
ダイバーシティ、エクイティ & インクルージョンの推進	女性マネジメント比率	19.2%	18.7%	20%以上
	女性次世代マネジメント比率	34.0%	34.0%	-
	女性従業員比率	41.5%	41.1%	-
	管理専門職層の中途採用者比率※2	39.8%	38.6%	-
	採用者の男女比率（新卒、中途）※2	新卒：45.2% 中途：25.8%	新卒：43.0% 中途：36.5%	-
	経営層の女性比率、外国籍比率※2	女性：8.3% 外国籍：16.7%	女性：8.3% 外国籍：16.7%	-
	経営層の女性比率	13.5%	14.8%	-
	管理専門職層の賃金格差(総報酬額)(女性:男性)※2	94.0%	96.2%	-
	一般社員層の賃金格差(総報酬額)(女性:男性)※2	82.1%	84.7%	-
	障がい者雇用率※1	2.38%	2.69%	2.65%以上

※1対象：国内グループ会社 ※2対象：シスメックス株式会社単体

# サステナビリティ目標 2025年3月期実績



・目標を「－」で表示している項目は、目標を設定しないモニタリング項目

## 魅力ある職場の実現

マテリアリティ	KPI	実績		目標
		2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
人材の育成	平均教育時間	24.4時間	24.7時間	40.0時間
	付加価値生産性（単体）※2	14,760円	15,042円	-
	付加価値生産性（グループ）	1,997万円	2,144万円	2,250万円
	人材育成投資（単体）※2	2.41億円	2.61億円	2.52億円
	人材育成投資（グループ）	3.69億円	5.95億円	-
	研修への参加率（単体）※2	100%	100%	90%以上
	研修への参加率（グループ）	97%	96%	-
	サクセッションプラン有効率※2	100%	92.3%	-
	サクセッション・カバレッジ率※2	311.0%	289.5%	-
健康増進と労働安全の推進	年間総労働時間※1 ※3	1,995時間	1,993時間	1,980時間
	有給休暇取得率※1	74.6%	67.1%	75%以上
	労働災害度数率※1	0.78	0.71	0.5未満
	労働災害強度率※1	0.07	0.05	0.05未満

※1対象：国内グループ会社 ※2対象：シスメックス株式会社単体  
※3：計算方法の見直しにより、昨年度開示数値から変更



# 参考：トピックス（2025年4月～7月）

## 既存事業の強化

- 「全自動血液凝固測定装置 CN-6000」および「多項目自動血球分析装置 XRシリーズ」が米国FDAより市販前届出のクリアランスを取得（米州）
- ケニアおよびギリシャに現地法人を設立（EMEA）
- インドの新生産拠点が本格稼働、Make in India製品を販売開始（AP）
- ブラジルの生産拠点を移転・拡張（米州）

## 新規事業の拡大

- 手術支援ロボット「hinotoriサージカルロボットシステム」を用いた欧州と日本間で初となる遠隔手術の実証実験に成功
- 再生細胞医療：シスメックスとGaudi Clinical、業務提携および資本提携に合意（日本）
- シスメックスと日本生命、ヘルスケア領域における協業に合意（日本）

## サステナビリティ

- 業績連動型株式報酬制度の導入
- 米国TIME誌「World's Most Sustainable Companies of 2025」（世界で最もサステナブルな企業2025）に選定



Together for a better  
healthcare journey